

石巻市長から国交省へのメッセージ

このたびの東北関東大震災では、宮城県石巻市は震度6弱という強震と、高さ十m以上という大津波により甚大な被害を受けました。

市では震災後すぐに災対本部を設けましたが、津波によって本部である庁舎が浸水し、さらに電話や携帯による通信手段も途切れるという事態となり、各支庁との連絡ができず、まさに八方塞がりとなった時に、当市に事務所を置く東北地方整備局北上川下流河川事務所の御支援御協力により、衛星通信電話の設置やボートの貸与そして市街地の浸水対策として排水ポンプ車による排水活動は、死の淵にあった石巻市を生へと導く第一歩ともいべきものであり、感謝の言葉もありません。

災害発生から1週間以上が過ぎようとしていますが、約四万人の市民が避難し、寒さが続く昨今にあっては、いろいろな不足が目立つところがありますが、全国そして世界の多くの方々から心温まる支援物資が届けられており、また国から物心両面にわたる御支援もあり、解消へと向かうのではと考えております。

しかし現在、最も心配なことは、多くの市民が壊滅的な被害を目の当たりにし、復興そして明日への希望を失いつつあることです。

死者そして行方不明者は日を追って増え続け、また家屋を失った世帯が1万5千世帯以上もある中で、明日への希望や夢はなかなか見出すことは厳しい現状ではあります、少しづつでも復興に向けて進まなければなりません。

復興のためには、マイナスからゼロそしてゼロからプラスへと向かっていく施策や整備が必要であり、その大きな一つとして新たな街づくりなどの基盤整備であると考えております。

市内は上下水道や電気、電話、ガスなどのライフラインの停止や、橋や道路、港湾などのネットワーク機能が寸断され、また海岸や河川施設の破壊など、長年にわたり整備した多くを今回の災害で失いました。

特に、沿岸部の住宅や公共施設は壊滅的な被害を受け、新たな街づくりという視点からの災害復旧が必要であり、物的・人的な支援が必要です。

そして、地震津波の驚異的な破壊力により失われた、国道398号新北上川大橋そして北上川河口部左右岸の堤防は、早期の復旧が必要であり、特に河口部は津波によって多くの人が未だ行方不明となっている地域だけに早期の復旧整備が無ければ不明者の捜索もままならないものであります。

さらに、地震によって石巻は約67cmも地盤が沈下し、なんでもない潮位なのに浸水し道路冠水や家屋への浸水が発生しているという声も聞いており、海岸・河川施設が破壊されている中で大きな課題になりつつあります。

約四万人の避難者への対応、ライフラインの復旧、交通ネットワークの確保、破壊された河川海岸施設及び港湾施設の復旧など、取り組まなければならないものがありにも多くありますが、是非、市民への明日への光として、迅速な復旧整備を進めていただきたくお願いいたします。

必要物資名	単位	数量	規格	備考
白米	kg	30,000		
非常用 アルコール(100g)	個	100,000	で玉瓶(260g)	
カップめん	個	100,000		
ガリソン				
カセットコンロ	個	15,000		
缶詰	個	200,000		
乾電池	單1、単3 個	各10,000		
常備薬	一式	230		
下着、下(新品)		10,000		